

部門名： カリキュラム・マネジメント	エントリー名： 山口県防府市立華陽中学校 西村 淳 平成30年度第4回中堅教員研修
------------------------------	--

活動名：
連携を意識した教育課程 ～カリキュラム・マネジメントの推進～

解決すべき課題：
新学習指導要領の告示後、教科等横断的な視点で研修を進めてきた。しかしながら、教科等横断的な視点で授業を行い一定の成果はあったものの、生徒にこのような力を育ませたいという明確なビジョンがなかった。当機構主催の研修講座すべてにおいて、マネジメントを行う際には、ビジョンがあり、現状を分析し、P D C Aのマネジメントサイクルを実行していく必要があると実感できた。ビジョンを明確にして、学校・家庭・地域でビジョンを共有しながら、カリキュラム・マネジメントを推進していく必要がある。

目標・方針：
カリキュラム・マネジメントを推進するにあたり、ビジョンを明確にし、ビジョンの共有を図るために必要なことを検討した。まず、ビジョンを明確にするために、学校教育目標、研修テーマをもとに現在の学校の状況を分析した。（全国学力学習状況調査の分析、S W O T分析（表1）等）その分析をもとに「各教科において生徒の基礎基本の定着を図る」というビジョンを描いた。そして、そのビジョンの共有を図るために、校内研修体制の中に「カリキュラム・マネジメント」ユニットを導入し、学校全体へ提案できるようにした。
また、防府市中学校教育研究会教務研修部の研修会において、市内の学校間でカリキュラム・マネジメントに関する情報交換を行うとともに、市内各学校のビジョンと具体的方策をまとめた。

外	支援的要因 ○地域とのつながり ・地域の伝統行事（塩浜太鼓・ヤットセ踊り等） ・P T A活動の活性化 ○関係機関との連携 ・公民館・小学校等とのつながり	強み ○生徒 ・学校行事への積極的な取組 ○教員 ・明るい職員室、協力的な雰囲気 ○保護者 ・学校への協力体制が整っている。	内
部	阻害的要因 ○生徒数の減少 ・地域に生徒がいない地区もある。 ○家庭環境の複雑化 ・地域に応じて様々な家庭環境がある。	弱み ○生徒 ・基礎基本の定着が図られていない。 ○教員 ・従来通り方法から脱却できていない部分もある。	部

表1 本校におけるS W O T分析

活動内容：
校内と市内それぞれにおいて、右表に示す活動を行った。

	校内	市内
	・各教科年間指導計画の見直し（他教科との関連） ・授業実践（複数の教科内容を盛り込んだもの）	・カリキュラム・マネジメントに関する研修 ・各中学校のまとめ（ビジョンと具体的方策）

活動の成果：
校内における成果として、「各教科年間指導計画の見直し」では、表2に示すように、教科の学習内容に合わせて他教科との関連を意識することで、教員が担当する教科の学習内容を改めて見直すよい機会となったと同時に、担当以外の教科の学習内容を知るよい機会ともなった。これらは、表3の結果からうかがえた。また、「生徒の学びの質を高める授業づくりにつながったか。」という質問には、75%の教員があてはまると回答し、教員が学習内容を見直し授業に対する意識が高まったことからよりよい授業づくりにもつながっていると考えられる。しかしながら、75%の教員が年間指導計画の作成に時間がかかったと回答しており、教員の負担軽減の具体策を検討する必要がある。

学習内容	他教科との関連
エネルギー変換の技術	社会 地理 資源・エネルギーとその利用 理科 第1分野 電気とその利用

表2 技術・家庭科（技術分野）年間指導計画（一部抜粋）

表3 本校教員の意識調査

	かなりあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
担当教科の学習内容を見直すよい機会になったか。	6%	82%	6%	3%
担当以外の教科の学習内容を知るよい機会になったか。	6%	86%	6%	3%
生徒の学びの質を高める授業づくりにつながったか。	3%	72%	24%	3%
今回の年間指導計画の作成には時間がかかったか。	13%	62%	20%	3%

「授業実践（複数の教科内容を盛り込んだもの）」では、主に2つの成果が見られた。1つは、教科の学習内容を教科の枠を越えて多様な視点で考えることができることである。例えば、技術・家庭科（技術分野）の「エネルギー変換の技術」の授業では、水力発電のしくみを理解する際、発電するしくみを技術的に考えると同時に、社会科の地理的環境条件に照らし合わせて考えることもできる。2つ目は、教科の連携パターンが見えてきたことである。以下に、3つを示す。

- ①連携授業（T T 授業）
 社会 1 2 3 4 5 → 2教科の学習を同時進行で実施し理解を深めることができる。
 技術 1 2 3
- ②授業実施時期の調整（電気に関する内容）
 理科 理論 1 2 3 4 5 → 1つの教科を学習し、より発展的にもう一つの教科を学習することで、より深い学びにつながる。
 技術 実践 1 2 3
- ③様々な教科に関係する内容
 言語活動やグループ活動 → 発表の仕方やまとめ方などを国語科で実践し、各教科の授業でも共通の取組を行う。

次に、市内における成果として、主に2つのことが考えられる。1つは、防府市内合同で様々な研修を行い、各中学校の取組を知ることができ、カリキュラム・マネジメントに関する理解が深まったことである。各中学校の取組には、表4に示すようなビジョン達成のための具体的方策が見られた。カリキュラム・マネジメントをとらえる三つの側面から考えると、参考になる事例が多く、今後、市内各中学校の取組にも生かされると予想される。2つ目は、市内の各中学校の事例を比較検討することで、各中学校の取組の方向性を見直すよい機会となったことである。

	ビジョン	具体的な方策
中学校	生徒や学校、地域の実態を適切に把握した上で、各学校の教育活動の質の向上を図っていくためのビジョン	カリキュラム・マネジメントをとらえる三つの側面をもとにした具体的方策
A中	各教科において生徒の基礎基本の定着を図るために	・各教科指導評価計画の見直し（他教科との関連） ・授業実践（2教科のつながりのある授業）
B中	9年間の学びを通して子どもたちの発信力を高めるために	・9年間の学びのゴールとつながりを明確にしたグローバル・コミュニケーション科の計画と授業実践
C中	生徒の実態をふまえ、求められる資質・能力育成をめざした学習指導の充実を図る。	・全国学力・学習状況調査等の各学力調査の分析から、全教科で方策を打ち出し、共有することで、全教員が横断的視点での学習指導を工夫する。また、それを学力向上プランで明確にすることにより、P D C Aサイクルでの検証を行う。
D中	授業改善と人事育成を校内研修の中心として、人材育成ユニット型研修を推進する。	・教科、経験年数等をふまえたユニットを4つつくり、授業を実践する。 ・教科の専門性を深めるため、外部から講師を招く。

表4 防府市内中学校のまとめ（11校中4校抜粋）

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・カリキュラム・マネジメントを推進するにあたり、ビジョンを明確にしたこと
- ・連携を意識した授業実践を行い、教科の連携パターンをまとめたこと
- ・市内各中学校の事例をまとめ、比較検討したこと